

～豊かな心と確かな力 瞳輝く寒川の子～

## 寒川町立小谷小学校

研究テーマ：「自ら課題解決に取り組む子どもを目指して～問いが生まれる授業づくり～」

### 1、実践の目的

今年度は、「自ら課題解決に取り組む子どもを目指して～問いが生まれる授業づくり～」をテーマとし、「問いが生まれる場面設定」を工夫するところに重点を置き、「子どもとのやり取りの中で文脈をつくる」や「教師による問い返し」をキーワードに研究を進めてきた。今回は、「問いが生まれる」だけでなく、「問いがつながる」についても協議していくことを目的とした。

### 2、実践の内容

#### (1) 研究授業の概要

5年2組「四角形や三角形の面積」

【協議の柱】

「問いが生まれる場面設定について」  
**生まれる**

- ① 長方形とその図形を変形させた平行四辺形の2つの図形を用意し、面積が変わるか変わらないかを考えさせる。(友だちの考えとのズレ)

**つながる**

- ② 平行四辺形の面積を求めるときに長方形を求める公式を使うと、図形を切って動かして求めたときと違う結果になることから、求め方を考える。(既習とのズレ)

6年3組「並べ方と組み合わせ」

【協議の柱】

「問いが生まれる場面設定について」

1200円以下のメニューの組み合わせという条件を付ける。

樹形図を用いて整理すれば考えやすいが、計算が必要なことや選ぶ品数が多いことで、困難さを感じさせる。より能率のよい調べ方がないかという考えを引き出したり、調べながら気づかせたりしていく。

#### (2) 校内研究会の様子

研究協議は、4グループに分かれて、KPT法で行った。「問いが生まれる場面設定の工夫」に焦点化して話し合い、各グループが発表して共有した。協議後、池田敏和先生から指導講評をいただいた。

\*KPT(ケプト)法

- ・Keep(成果、よかったこと)
- ・Problem(課題点)
- ・Try(改善策、提案)

#### (3) 研究授業、研究協議の様子





### 3、実践の成果

#### 5年2組の成果

- 子どもたちの反応やつぶやきが多く、何でも言いやすい雰囲気があった。また、「納得するまでやる！」という探求心が感じられた。
- 子どもの問いに寄り添い、子どもたちが言ったことで問いが変容し、授業が進んでいった。
- 教師の問い返しが有効だった。「たてって何？」と既習事項に戻って確認ができていた。
- 長さを測ったりマスを数えたりと自分でやってみることで「そうなんだ！」と実感できるようにしていきたい。
- 「斜め」が高さにならないところを教師が問い返したことで、様々なつぶやきが出てきた。

#### 6年3組の成果

- メニュー表をあえてバラバラに掲示したことで様々な考えが出された。ロイロノートで回答を共有したことにより、授業で取り上げた児童の考えだけではなく、多くの考えに触れることができた。

- レストランという生活に結び付いた場面設定だったため、生活の中の算数を身近に感じる事ができたとともに、考える際に取りかかりやすく、多様な考えを引き出すことができた。
- ロイロノートを通して、友だちの考えとの共通点や違う点について考えたり説明し合ったりし、理解を図ることができた。それぞれの考えを共有し、それぞれの方法の良さを見出すことができた。

### 4、今後の展開

子どもとのやり取りの中で文脈をつくり、問いが生まれるようになってきた。今後は、問いがつながる授業を目指して、どのような子どものつぶやきや教師の問い返しから、どのように問いがつながっていくのか(問いの変容)を想定していきたい。また、どの既習事項に戻って再思考していくのか把握しておきたい。

\*どのように問いがつながっていくか  
(問いの変容の例)

①「形が変わると面積は変わるかな？」



②「計算して比べよう！」



③「 $24\text{cm}^2$ と $30\text{cm}^2$ どっちが正しい？」



④「なぜななめ×よこじゃだめなの？」

教師の問い返し  
「たてって何？」